

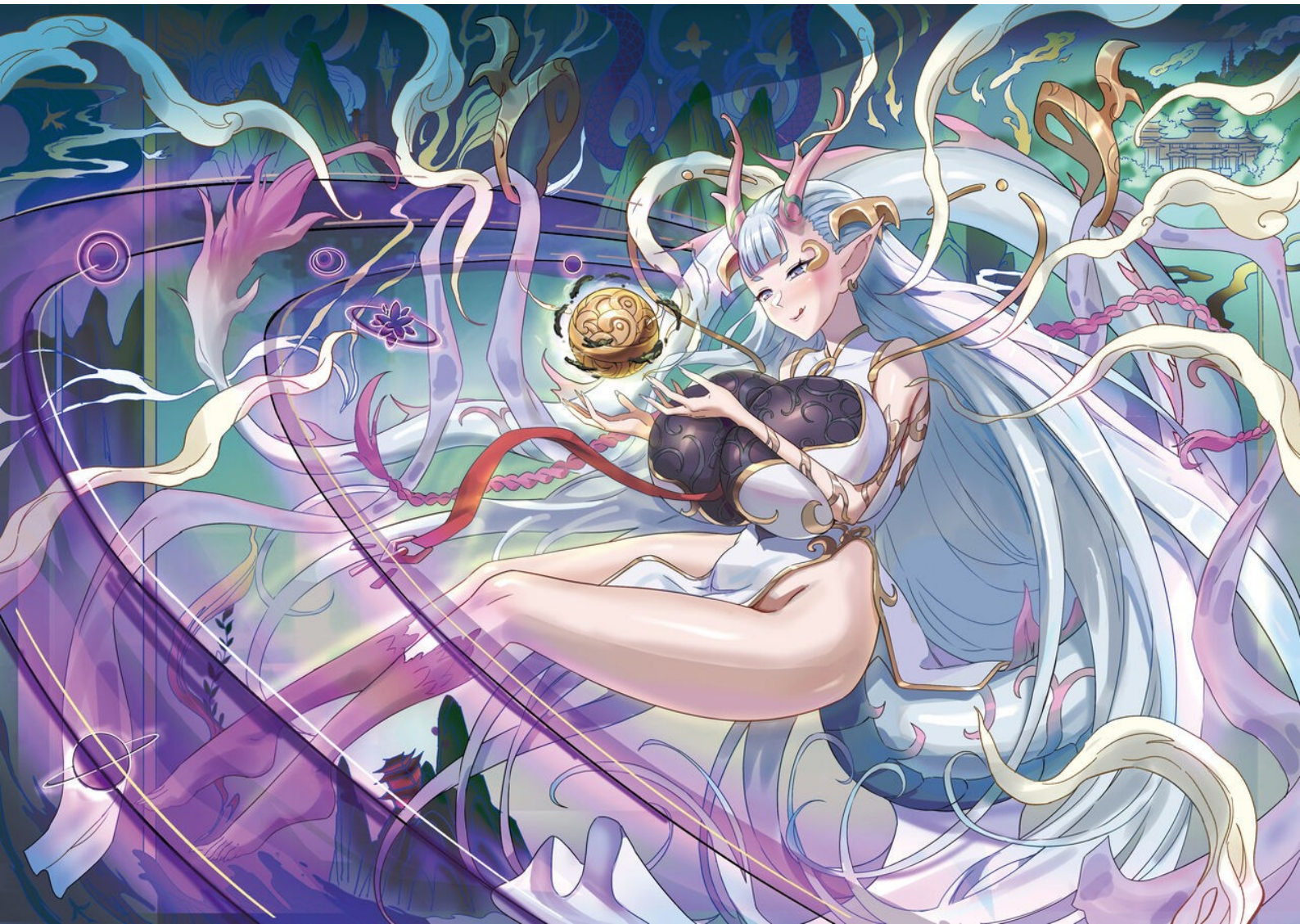
龍吟

Dragon Roars, Wind Rises

雲起



彷徨える大陸
異世界見聞録
Wandering Continents
Travlogue in Otherworld



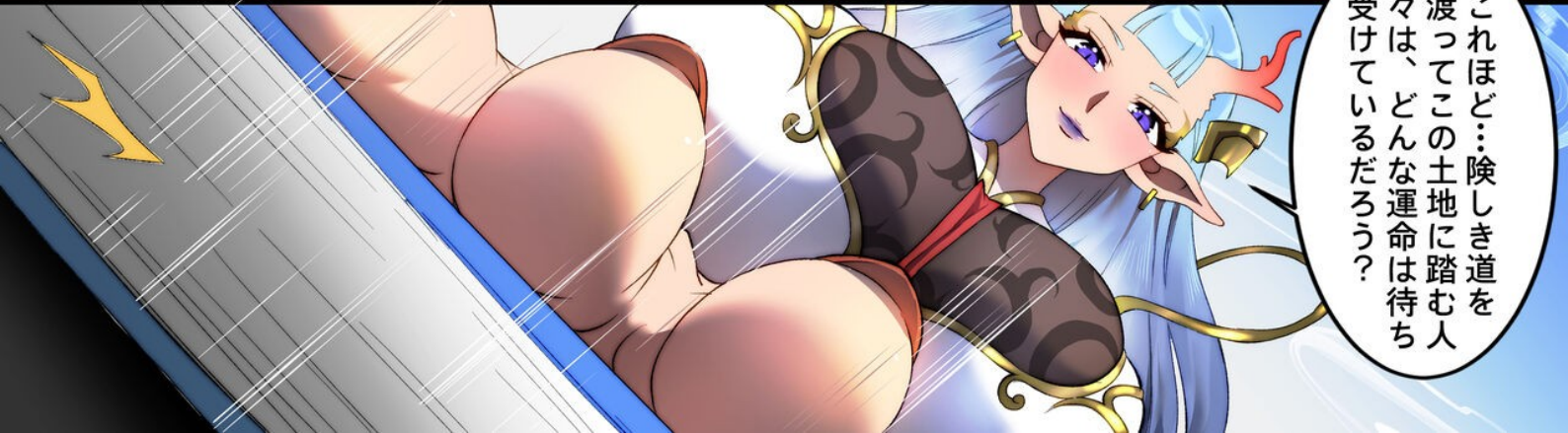
前回のあらすじ：
遠くの未来に、太陽は
尽きる寸前に、人類は
地球を諦めて巨大なエ
ンジンで都市を地表か
ら引っ張り上げ、箱舟
として「異世界」に向
かう！



しかし、パラダイスとな
りうるべきな異世界は、
多く不思議な巨大生物が
存在している！



これほど：険しき道を
渡ってこの土地に踏む人
々は、どんな運命は待ち
受けているだろう？





瞬く時間で、俗世の民にこれほど消耗されるなんて、妾が陰陽二界を渡る仙法を熟知していなければ、汝たちは冥界を新居を置くだな。

人類と自称した微生物よ、汝たちはこれほど原始な技術で寰宇之壁を越えてこの境界に侵入するとは、蛮勇と称すべきか、愚昧と称すべきべきか？



空をみる！

俺らを救った龍女様だ！

ゴゴゴ



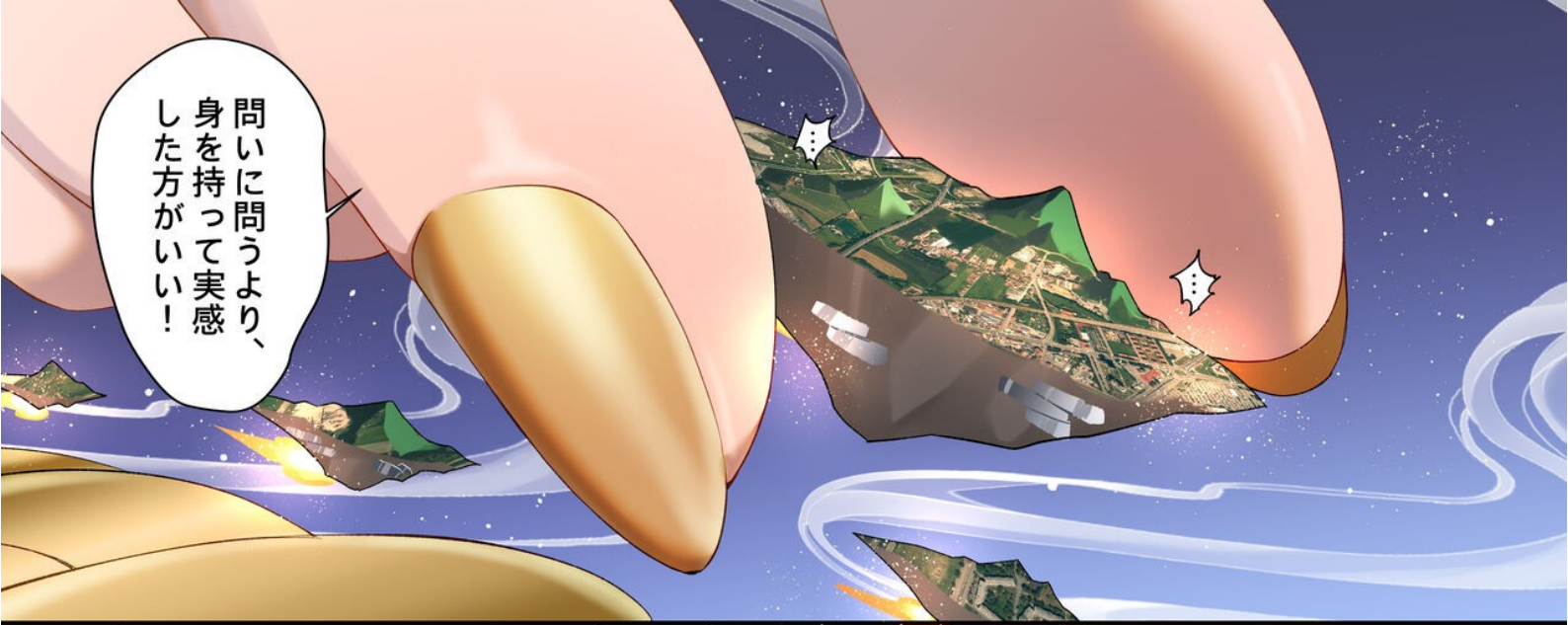
彼女…何を言ってる？



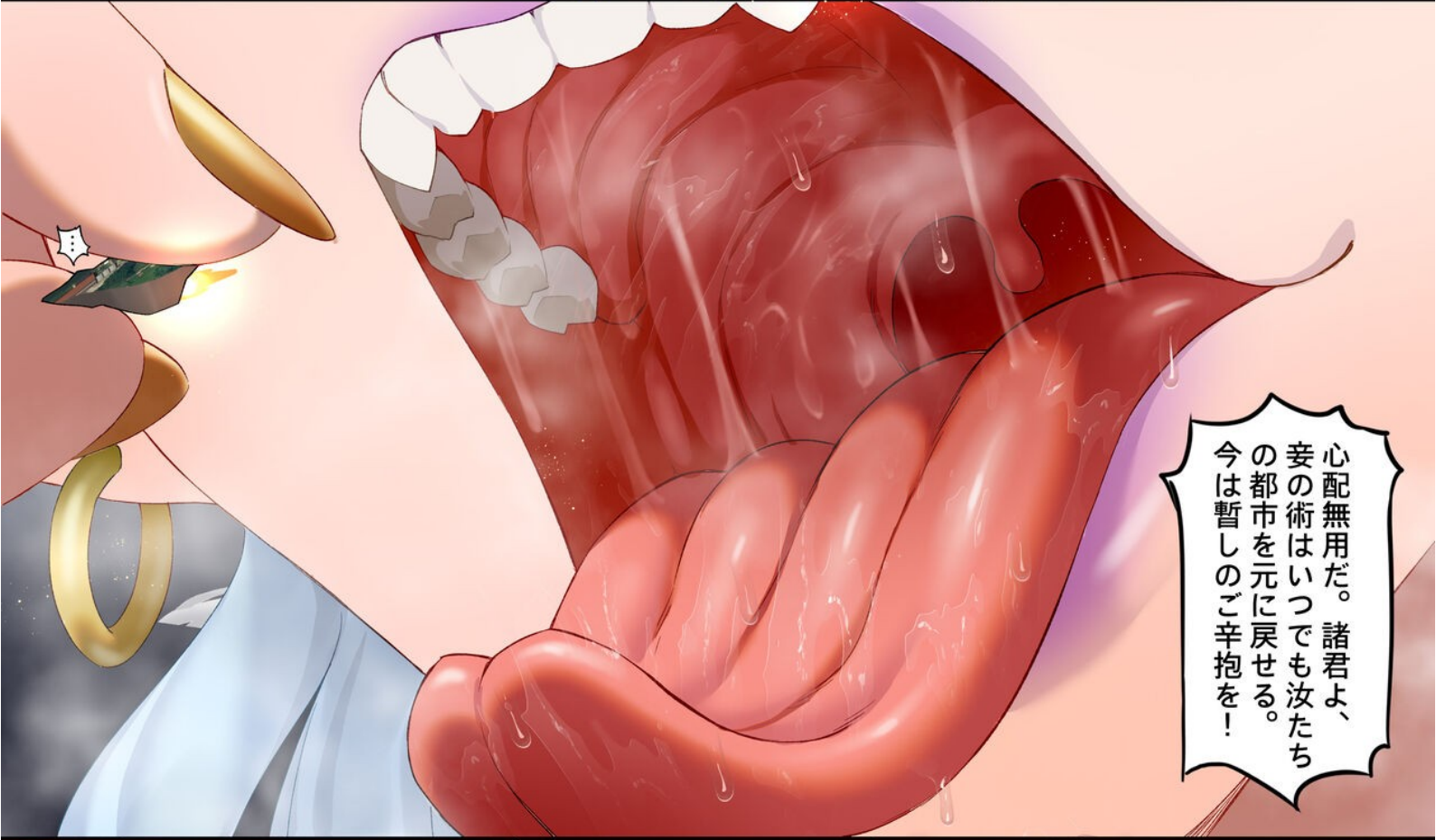
まさか…汝たちに不思議な神妙が持っているか



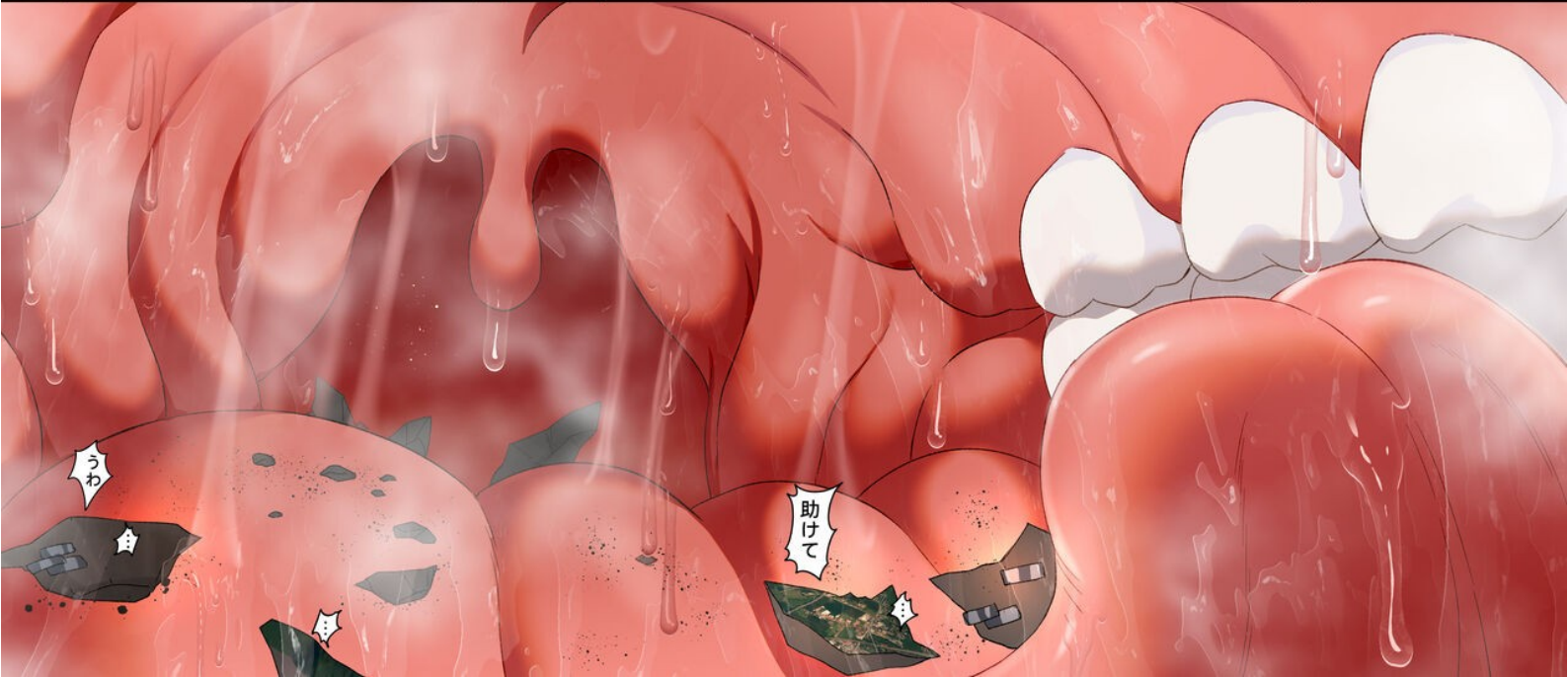
しかし、汝たち本当に小さすぎて存在すらなかったようだ。とはいえ、塵世の民に愛されているのは、何故だ？



問いに問うより、
身を持って実感
した方がいい！



心配無用だ。諸君よ、
妾の術はいつでも汝たち
の都市を元に戻せる。
今は暫しのご辛抱を！



うわ

助けて



妾が未開化の塵世の民のものまねで、
汝たちの不思議を明かそう！

ちゅわん

あは

あは

おのれ！善良な女神でも思ったのに！

遠慮いらん！
ありったけの
火力を全部出せ！

一番柔らさそ
うなところを
狙って、打て！

ズ
ズ

す
す

かつてない快感……！
いかに神秘であり！
探究すべし！

ドン！！

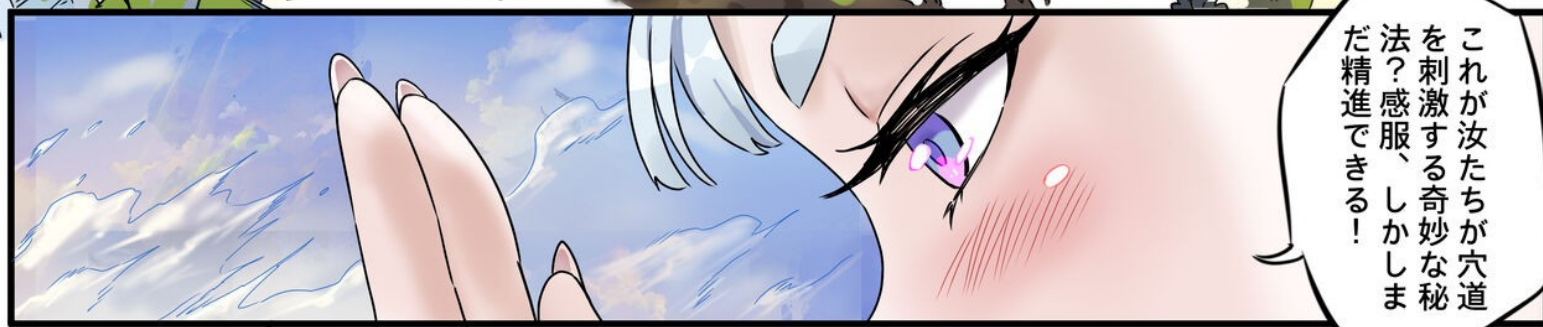
ザ
ザ
ザ
ザ



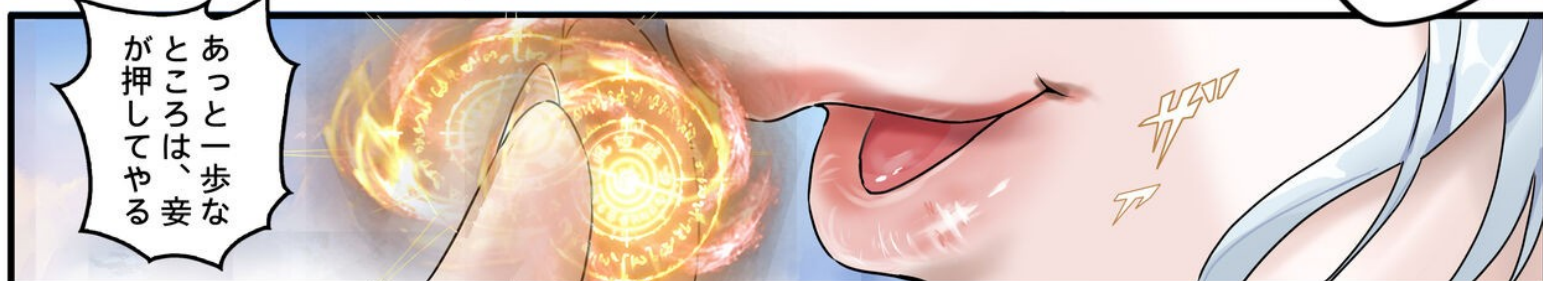
あははは！これほど
絶頂体験、数千
年ぶりだ！

ピチ

ドズッ

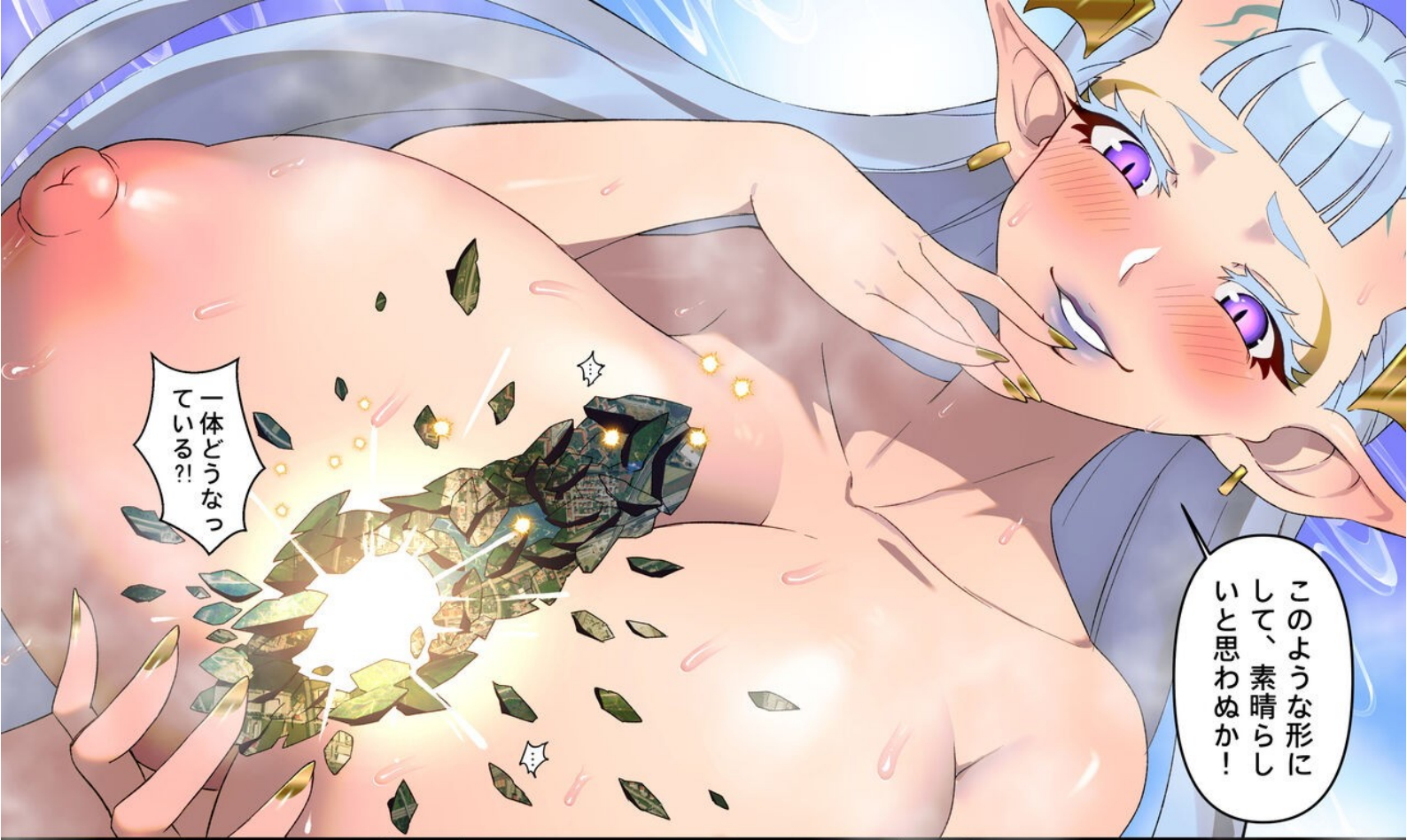


これが汝たちが穴道
を刺激する奇妙な秘
法？感服、しかしま
だ精進できる！



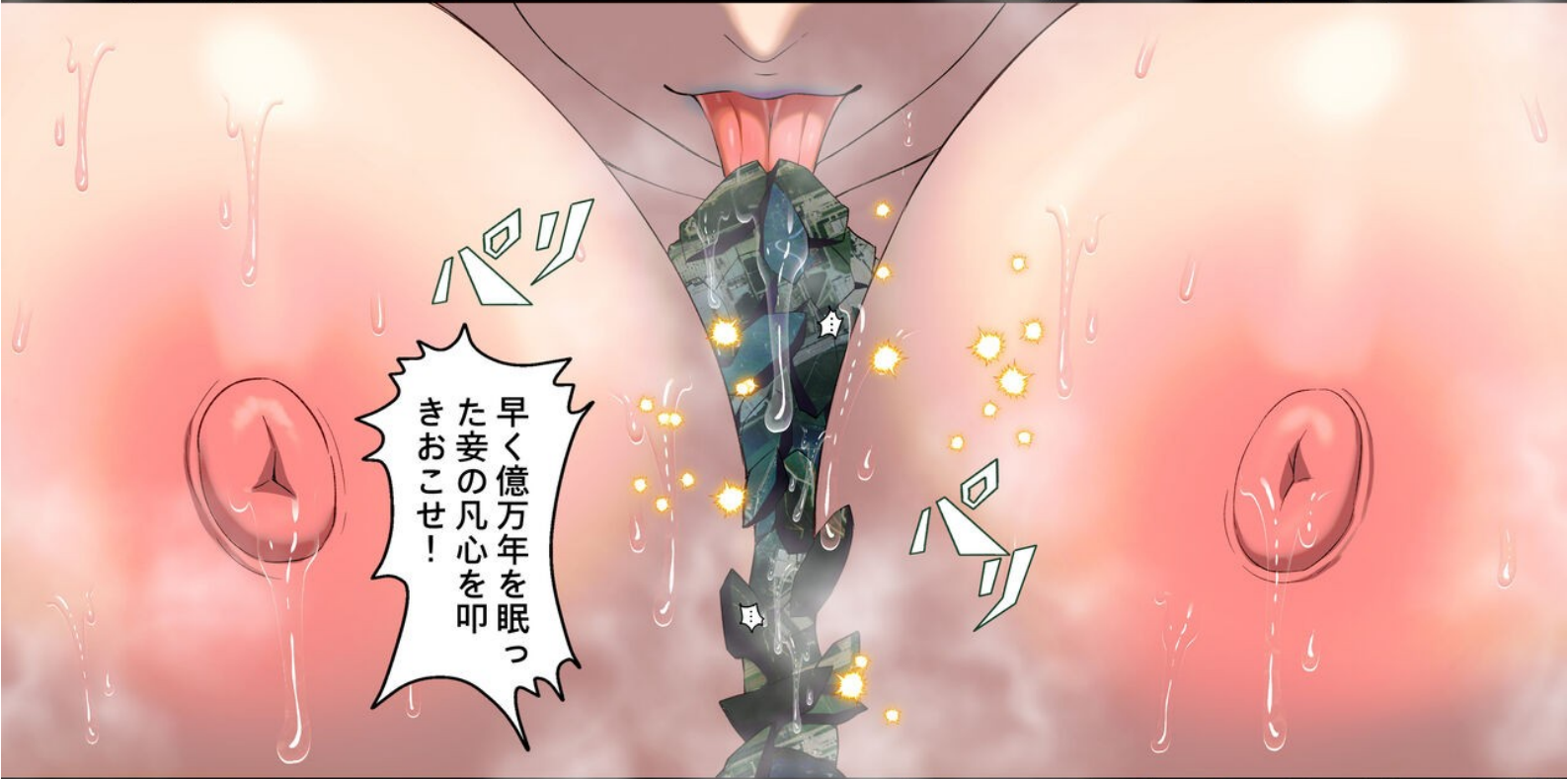
あっと一歩な
ところは、妾
が押してやる

フズ
ア



一体どうなっ
ている?!

このような形に
して、素晴らし
いと思わぬか!



早く億万年を眠っ
た妾の凡心を叩
きおこせ!



はあ…



ズドシ

汝たちは準備できたか…ふん、まだ慌てる様子だな？心配無用じゃ、妾が優しい心持ちじゃぞ！

ツツツ…



ツツツ…

あ…入ってきたぞ！
汝たちは懐かしさを
感じたか？お！これ
もある意味では故郷
と喻えるじゃ？



至福極楽
あああ!


キタ



何か出た!

ワ

あれは転送
陣だ! 新世
界への扉だ



ふ、ふ…見事だった、
諸君。汝たち既に約束の
地に辿るゲートは開いた。
安心して行くがよい！

フッ

クワッ

クワッ

素晴らしい、
新しい宇宙だ！

全艦隊、
前進！

前方に居住可能
な星があるかも
しれない！

彼女は嘘を言っ
ていないのだ。
最高だ！

まって！なんで
恒星系が自分か
らぶつかる！

ズズ

うふ！これがお姉さんが言う
異世界の縁か？地下数千年を
費やして時は無駄ではないよ
うだ。どうやら可愛い皆さん
が妾の天命ね！共に未来永劫
を過ごそうではないか！

ドク

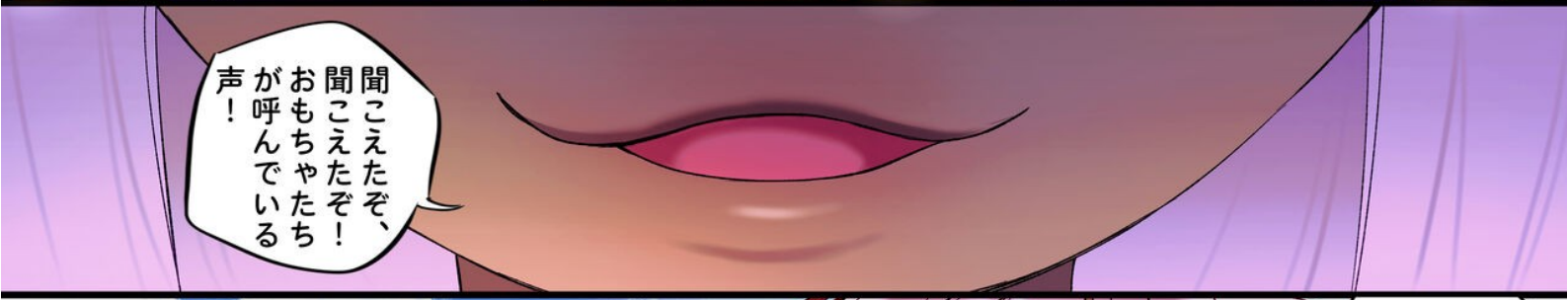
ドク

！！



ちりん~

ん?



聞こえたぞ、聞こえたぞ！おもちゃたちが呼んでいる声！



さあ、穴掘り大工、道案内は頼む！

惚れないって！小生に無理っす！

{完}